

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和6年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

本校では、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等に示された教育の目標や内容及び本県の教育行政の方針、さらに宇都宮市民憲章、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、陽南地区の教育的・文化的環境、本校生徒の実態等を考慮し、健康で明るく気力に満ちた21世紀を担う健全な生徒の育成のために、次の目標を設定する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 1 気力・体力・活力に満ちた生徒
- 2 心情豊かで責任感の強い生徒 ○生徒指標：「よく学び、よく鍛えよ」
- 3 自ら学び、創造性に富む生徒

※以下、下線部は昨年度および今年度より新たに付け加えた点

2 学校経営の理念

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせるとともに、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高め、多様な人々と協働しながら自分と社会の未来を拓き、持続可能な社会の創り手となることができる生徒を育成する。

また、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育9年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。

こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校のデジタル化を進めるとともに、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

〔目指す教師像〕

- ・組織人としての責任感や協調性をもち、互いに高めあう教師
- ・優れた専門性と指導力をもつため、学び続ける教師
- ・人間性豊かで信頼される教師
- ・探求心をもち、新たな課題に対応できる教師

3 学校経営の方針

〔陽南地域学校園教育ビジョン〕

主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育

テーマ：生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成

- (1) 学習指導要領や第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 地域や世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、身につけた力を地域や社会

のために活用できる特色ある学校づくりと教育課程の編成に努める。

- (3) 生徒の実態をふまえた個に応じた指導など、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (4) 共感的な生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (6) 健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康的な生活を送るための基盤づくりに努める。
- (7) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

【キャリア教育の視点】

- (8) 保護者や関係機関等との連携を十分に図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を図る。
- (9) 陽南地区の児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成を目指し、義務教育9年間を見通した系統的な指導や教職員の交流を通して、小中一貫教育の充実を図る。
- (10) よき伝統や教職員の創意工夫を生かしたり、地域の教育資源を積極的に活用したりする教育活動を推進するなど、特色ある学校づくりに努める。
- (11) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、地域協議会の活動の活性化を通して地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- (12) 教職員が、生徒と十分かつ適切に向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスの実現のため、業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【教職員の働き方に関する視点】

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ① 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- ② 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- ③ 新しい時代に生きる生徒に必要な資質・能力の三つの柱である「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- ④ 各教科・領域の指導に当たっては、令和3年度から全面実施された学習指導要領を踏まえ、生徒の実態に応じ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、一人一人の生徒が分かる授業の展開に努める。
- ⑤ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達段階の特性を考慮して編成する。
- ⑥ 地域や学校の実態を考慮し、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- ⑦ 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

(2) 留意点

- ・ 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で再構築する。
(全教科・領域を通した話し合い活動の充実、主体的に学びに向かう集団作り、言語環境の整備等)
- ・ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、国際理解教育、人権教育、環境教育等においてSDGsとのカリキュラムマネジメントを図り、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進を行う。【教科横断的な視点】

- ・ 小学校及び中学校が一貫した教育課程の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行えるように努める。
- ・ 保護者や地域の声を、学校評価等を通して把握し教育課程の改善に生かす。
- ・ 地域の教育力を活用するなど、必要な人的又は物的な体制を確保する。
- ・ 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることに努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（１）学校運営

① 学力向上

- ・ 基礎基本の確実な習得
- ・ 授業改善を目指した GIGA スクール構想の推進
- ・ ソサエティー5.0 を生き抜く力を育てる

② 見通しをもつ力（＝学びに向かう力）の育成 ～学校全体の教育活動を通して

- ・ 特に学習指導・生徒指導・キャリア教育・生徒会活動との関連を図る

③ SDGS カリキュラムマネジメント ～持続可能な社会の担い手を育てる

- ・ 各教科・領域・生徒会とSDGsの関連
- ・ 地域未来会議 地域と生徒会の関連を図る（地域が目指す生徒像の策定）
- ・ SDGs プロジェクトチームの支援のもと、生徒会活動の活性化を図る
- ・ 国際理解教育の推進

④ 誰一人取り残さないウェルビーイングな学校

- ・ ウェルビーイングの深化（個から場へ）
- ・ 教育相談、不登校対策の充実
- ・ 多様性を認める
- ・ 地域未来塾
- ・ チーム学校 業務改善 働きやすい職場

⑤ その他

- 地域ボランティアへの参加など地域との連携を図った特色ある学校づくりを推進する。
- 小中学校間で課題の共有を図り、学校園全体で課題解決に取り組む小中一貫教育を推進する。
- ・ ホームページ、各種たよりの発行やPTA・地域協議会への情報提供などを通して、家庭や地域との連携を一層深める。
- ・ 部活動の適正な実施など業務の適正化を図るとともに、「働き方改革推進チーム（仮称）」を組織し、ボトムアップによる働き方改革を推進する。
- ・ 業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。

（２）学習指導

- ・ 「学業指導」の理念や「宇都宮モデル」を踏まえ、「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を展開・改善し、生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努めるとともに、一人一授業の公開を基本とした研修に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習を実施することにより、学力の基礎・基本の定着を図る。
- 特別の教科「道徳」に対する理解を深め、道徳科の目標を具現化する授業の在り方や評価等について研究を推進する。
- 家庭学習の充実に向け、タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を

図るとともに、A I 型ドリルの積極的な運用に努める。

- ・ 「宮・未来キャリア・パスポート」を活用し、系統性のある継続したキャリア教育（進路指導）の取組に努める。

（3）児童生徒指導

- ・ 不登校対策プロジェクトチームの運用を明確かつ活性化させるとともに、家庭、その他関係機関と十分に連携を図った教育相談体制を構築し、不登校生徒の減少に努める。
- ・ いじめ防止にむけた効果的な取組を意図的・計画的に実践し、いじめの起こりにくい環境を構築するとともに、積極的に取組の公表を行う。また、いじめ調査などの充実を図り、いじめの早期発見・早期対応が機能する指導体制の充実を図る。
- ・ 問題行動等の発生に対して、学校全体で情報の共有を図り、組織的に対応する体制を一層強化する。（報告・連絡・相談の徹底）

- 外部講師等を招聘するなどして、スマートフォンなど情報機器の適切な使用について指導の充実を図り、ネットトラブル等の未然防止に努める。

（4）健康（体力・保健・食育・安全）

- 交通安全教室などを実施するなどして、交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ、自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。
- ・ 体力の向上や心身の健康の保持増進に心がけ、自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。
- 食に関する指導の一層の充実を図るとともに、生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式 2～4 参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

様々な体験活動を通じて、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 学校行事

- ◇ 農業体験学習（学校農園）
- ◇ 文化祭合唱コンクール
- ・ 働く人に学ぶ

② 生徒会活動、開かれた学校づくり

- ・ 生徒会を中心としたあいさつ運動
- ・ 各種地域ボランティア活動

③ 国際理解教育の推進

- ・ 令和 5 年度に行ったユネスコ事業「インド教職員招へいプログラム」をもとに、現地インド学校と本校間での、生徒および教職員の相互交流を推進する。（総合的な学習の時間、英語科授業において計画）

8 本市の重点施策・事業との関連

（1）地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

① 基本的考え

いじめや不登校、学力の向上など、学校が抱える諸課題は、家庭や地域社会の理解と協力がなければ、より良い学校運営ができない状況である。そこで、学校の目指す目標や取り組みについて「魅力ある学校づくり地域協議会」や家庭に十分な情報を提供するなどして理解を得た上で、学校に対する協力を得ていく。

② 主な取組

- ・ 地域未来会議を開催し、「地域が目指す生徒像」を明確にし、学校と地域が共有する。
- ・ 生徒会執行部、中央委員会を主体とした「地域とつながる学校」を推進する。
- ・ 協議会での情報提供と意見交換の場の設定
- ・ 地域指導者による「地域未来塾」を開設し、学習支援を行う。
- ・ 学校だよりや学校ホームページでの学校の取組を周知する。
- ・ 地域行事への参加や生徒のボランティア活動を推進する。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

陽南地域学校園では、「主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育～生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成」を教育ビジョンに、7部会を設定し生きる力を持つ児童生徒を育成する。今年度は特に「授業力向上プロジェクト研究の推進」「授業におけるICT活用推進（デジタルシティズンシップ教育を含めて）」「アフターコロナでの各部会における活動内容の検討」「副校長を各部長として組織力アップ」を掲げて研究を行う。

② 主な取組

- ・ 小学校高学年における教科担任制への支援
- ・ 中学校から小学校への乗り入れ授業（中1ギャップの解消）
- ・ 小中合同お弁当の日
- ・ 学校図書館交流（図書委員会で集めた古本の提供）
- ・ 児童生徒指導強化連絡会、不登校対策連絡会議
- ・ 小中合同あいさつ運動 など

(3) 不登校対策

① 基本的考え

不登校を生まないために、生徒一人一人のよさを認め励まして自己有用感を高め、互いを尊重し合う温かな人間関係作りに努める。また、学校だけでなく、SC、MS、関係機関との連携を図り、学校のチーム力を高めて指導体制を強化する。

② 主な取組

- ・ すべての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進【誰一人取り残さない学校】
- ・ ウェルビーイングの深化（個から場へ、学校全体を良い環境へ）
- ・ 不登校を出さない指導の展開
- ・ 校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
- ・ SC、MS、関係機関との連携
- ・ 別室登校支援の充実

(4) GIGAスクール構想

① 基本的考え

GIGAスクール構想の実現を目指し、1人1台端末を文具の一つとして授業はもとより日常生活に活用できるよう、着実に取組を進める。また、今後は一人一台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現と「ICTを活用した授業改善」を進めていく。

一方、デジタルシティズンシップ教育推進のため、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」に基づき、発達の段階に合わせてより良い情報の使い手となるための教育を体系的・継続的に指導する。

② 主な取組

- ・ GIGAスクール構想推進プロジェクトチームを中心とした取組
- ・ 教科指導におけるICT活用（スクールタクトを中心としたアプリの活用）
- ・ ソフト面、ハード面、指導体制の確立
- ・ 学校における学習の個別最適化を図るための環境づくり
- ・ 宇都宮モデルを活用し、協働的な学習を推進する。
- ・ 生徒の情報活用能力の育成
- ・ 教師に求められるICT活用指導力等の向上
- ・ 特別支援教育におけるICT活用
- ・ 家庭学習におけるICT活用
- ・ AI型学習ドリルの活用
- ・ デジタルシティズンシップ教育の推進

(5) 宇都宮学

① 基本的考え

地域の教育資源や資料を活用し、伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や、郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土等について理解する学習を行うなどして、生徒が郷土への愛情と誇りをもてるようにする指導の充実を図る。

② 主な取組

- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会の行事との関連（歴史探訪ウォーキングなど）
- ・ 宇都宮市「SDGs未来都市」との関連を図る。
- ・ 宇都宮学の教科書を用いた授業を通して、郷土への愛情を育む。
- ・ 地域教材および人材の活用
- ・ 各学年活動展開計画の年計への位置づけ
- ・ 指導案および学習シートの活用と自校化

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・全国学力学習内容調査では、市の平均と比べて、国語が2％程度、数学・英語が1％下回っていて、ほぼ市の平均と同様である。家庭学習の時間は3時間学習している生徒の割合は市の平均よりやや劣るが、1時間以上学習している生徒の割合は市の平均を上回っている。しかし、2時間以上読書をしている生徒の割合は、市に比べかなり少ない傾向にある。
- ・とちぎっ子学習状況調査では、市の平均と比べてすべての教科で、5％程度下回っている。「1日当たりの勉強時間はどれくらいですか」という質問に「2時間以上」と答えた生徒は全体の20.2％であり、これは宇都宮市の平均を6.7％下回っている。一方で、学習時間が「1時間未満」と回答した生徒は36.8％であった。
- ・学習内容定着度調査では、多くの教科、境域において市の平均より2％程度低い項目が多く見られるが、市の平均を超えている領域もみられ、全国学力学習内容調査から比べるとかなり改善してきている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・学習内容定着度調査では、「勉強が好きですか。」という質問に対しての市の平均と比較しての肯定的な回答は1年生2％、2年生は5.8％、3年生では2.6％下回っている。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問に対して1年生1％市の平均を上回っているが、2年生では4ポイント程度下回り、3年生では2ポイント程度上回っている。

1年生においては平日の家庭学習は市の平均同程度だが、土日は5ポイント下回っている。2年生は平日10ポイント程度、休日5ポイント程度下回っている。しかし、家庭学習についての指導，助言を実施していることで、家庭学習が身につく始め、学習に意欲が見られるようになってきた生徒も増えてきている。さらに継続指導することで、くり返して練習することの大切さを理解し、取り組めるようになってくると考えている。

3年生においては、昨年度からの自主学習の取組が浸透し、内容の工夫や改善をしていこうとする生徒も多く見られるが、1，3年生においてはまだまだ個別の対応も必要である。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学習内容定着度調査の生徒質問紙では、「授業の始まりには席についている」に対する肯定的な回答は1，2年生では97ポイント以上となっており、市の平均を上回っており、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。100％に近づけるため、今後も指導を継続していく。
- ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」や「いろいろな視点や立場で考えることができる」に対しては、各学年とも市の平均より低くなっている。論理的に考え発表することを苦手とする生徒がやや多い。

2 今年度の重点目標

- (1) 主体的・対話的で深い学び(宇都宮モデル)の実現に向けた授業改善の推進
- (2) 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (3) 情報活用能力の育成とデジタル・シティズンシップ教育の充実
- (4) 郷土への愛情を育む学習の推進
- (5) 英語教育・国際理解教育の充実

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 学習意欲・主体性の向上

- 各教科における基礎・基本の確実な習得（通年）
 - ・数学科，英語科における少人数学習や習熟度別学習による定着度に応じた指導の実践（随時）
- ★宇都宮モデル（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）を意識した授業の実践を行う。（通年）
- ★自分の思いや考えを表現する課題学習の場の設定と一人一人の意見を大切にしたい集団づくりの醸成を図り，思考力・判断力・表現力を育成（随時）
- グループ学習や，学習したことを基に考えを深める学習を充実させ，協働する力の育成（通年）
- 自分で考え，進んで行動する態度の育成（通年）
 - ・定期的な教科部会による共通理解と各教科の研究課題に迫る指導の実践（随時）
 - ・落ち着いた学習環境のため，各教科における授業の約束の設定と指導，学習環境の整備（通年）
- チャイム前着席，チャイム開始の授業規律の維持（通年）
- ★読書活動の推進（通年）
- ★スタンダードダイアリーを活用した家庭学習の記録の蓄積と自主学習指導の充実（通年）
- 家庭学習（自主学習）の仕方を指導するなど，家庭学習を促す働きかけ。特に定期テスト前には，質問教室を放課後に設定するなどし，家庭学習の支援を行う。（通年）
 - ・SDGs達成に向けた取組を生徒会を中心として活性化（通年）

(2) 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図る授業を実施する
- 人権教育や主権者教育の充実を図る。

(3) 情報活用能力の育成とデジタル・シティズンシップ教育の充実

- ★タブレットなどのICT機器の効果的な活用法の研究と授業の実践（随時）
- 一人一台端末の活用を通して，情報活用能力の定着を図る。
- よりよい情報の使い手を目指す，デジタルシティズンシップ教育を推進する。

(4) 郷土への愛情を育む学習の推進

- ★「宇都宮学」や「道徳科地域教材」を用いた授業を通して，生徒が郷土への愛情と誇りをもてるようにする指導の充実を図る。
- 特に「宇都宮学」については，学校や地域の実態等に応じ，自校化を進め，探究的な学習過程の充実を図る。

(5) 英語教育・国際理解教育の充実

- ★生きた英語や文化に触れる機会の充実を図り，異文化を理解し尊重する姿勢を育む。
- 英語によるやり取りを中心とした授業づくりに努める。
- ALTを，休み時間や放課後などあらゆる時間において活用する。

(様式3)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和6年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・昨年度の暴力行為発生件数は0件であった。教師の指導に素直に従えないという生徒はほとんど見られなかったが、授業中に無気力な生徒はやや見受けられる。
- ・いじめ発生件数は17件であった。いじめアンケートによって発覚したもので、Google フォームを利用したアンケートで学校だけでなく、家庭でも実施できる形をとっている。17件中の16件が軽微な悪口や冷やかしのによるもので、担任や学年主任が指導し解消された。
- ・年度末に2学年で制服が、1学年で上履きが隠されるという件が起こったが、隠した生徒が不明であるため、いたずらかいじめか判断できず問題行動として計上していない。
- ・本校の生徒指導上の最重要課題として、不登校対策に重点を置いて取り組んでいるが、本年度は不登校生徒が49名で、不登校生徒の割合が6.4%であった。昨年度の割合は7.2%なので減少傾向にある。不登校以外に起立性調節障害等、病気が原因で長期欠席の生徒も少なくない。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

学習と生活についてのアンケートなどをみると

- ・全学年ともほとんどの質問において、市の肯定割合をやや下回っているが、生徒は明るく、元気に、学校生活を送り、授業にも意欲的に取り組んでいる様子が見えてくる。
- ・スマートフォン所持率が、1年78.4%(67.9%)、2年86.0%(67.0%)、3年83.8%(61.8%)となっている。〔()内はフィルタリングしている数〕

その中で、平日に2時間以上TVやスマホで動画を視聴している生徒は、1年35.8(17.9)%, 2年34.5(19.7)%, 3年24.7(10.7)%である。〔()内は3時間以上視聴している数〕宇都宮市全体でも平日に2時間～3時間動画を視聴している生徒が増加していて、YouTubeやTikTok、インスタライブなどが視聴している動画であると考えられる。

(3) 学校生活の状況から

- ・学習や運動、行事活動に前向きで、明るく元気に学校生活を送っている生徒が多い。年度末に実施した学校生活アンケートでは、99.2%が1年間明るく元気に生活することができたと答えた。
- ・登下校についても、99.7%がルールを守ることができたと回答しているが、地域住民からのクレームは多い。単独・交通事故については年間で8件あり。緊急搬送は3件あったが大事には至らなかった。

2 今年度の重点目標

(地域学校園内での共通する目標は○)

自他を認め、思いやりのある社会性を育む生徒指導の充実
～規範意識を高め、望ましい自己決定ができる生徒の育成～

- ・信頼に基づく望ましい人間関係を構築するためにとことん生徒に向き合う。
- ・生徒一人一人が目標をもち、生徒がお互いに自らをかけがえのない存在として尊重し合い、個性を認め合い、その伸長を図る。

- ・教育活動全体を通して、特に学業指導の充実と徹底を図る。
- ・豊かな心情（生命尊重の精神や人権感覚・思いやりの心等）と創造性を伸ばし、「ほめて伸ばす指導」を展開することにより、生徒の自尊感情を育み、思いやりのある社会性の醸成を図る。
- ・社会の中で自己実現ができる生徒（社会的資質をもつ生徒や行動力を高めることができる生徒）や規範意識の高い生徒（場に応じて適切な判断のできる生徒）の育成を図る。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基本的生活習慣の確立と安全意識の徹底

礼儀、言葉遣い、身だしなみ、時間を守る、交通ルールなどの日常生活での基本的生活習慣をしっかり身に付けさせ、正しい判断に基づいた規律正しく、安全な生活の定着に努める。

- ・時間を守らせる（5分前行動・3分前着席）…各クラス学級委員等に呼びかけ
- ・あいさつをきちんとさせる…担任の日々の指導、生徒会等によるあいさつ運動の実施

★□学校のきまり、社会のルール、交通ルールを守らせ、規則正しく安全な生活をさせる…生徒会朝会、交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施

・いじめ強調月間…いじめゼロ朝会（5月）、アンケート実施（5月、7月、10月、12月）

★□情報モラル教育の充実…スマホ・ケータイ安全教室の実施（4月）

（2）授業における生徒指導の充実（学業指導の充実）

各教科・領域において生徒指導の機能を生かし、達成感、満足感を感得できる授業づくりに努める（三機能、人権教育上の配慮の明確化）。

- ・学習用具の準備の徹底
- ・チャイムで授業を始め、チャイムで授業を終わらせる。
- ・授業開始時・終了時のあいさつを徹底させる。
- ・指名されたらはっきりと返事をさせる
- ★□□授業における話し合い活動の充実
- ★□□ChromeBookを活用した授業の実施
- ★□□コミュニケーション能力を育む授業づくり
- 授業終末でのふりかえりの習慣化

（3）個の理解と集団づくり

教育相談の本質を踏まえ、教師と生徒が望ましい人間関係を醸成し、ＳＣ等と連携しながら、組織的に対応し、生徒一人一人に温かな目を向け、内面を理解するとともに居がいのある学級集団づくりに努める。（いじめ、不登校への対応、発達障害への理解）

□○いつでも、どこでも気軽に、学年を問わず声かけをする

・生徒に関する情報交換の徹底…生徒指導係会、教育相談係会の記録の回覧等その他随時

★□○一人一人が所属感を実感できる学級づくりを進める（いじめ、不登校の早期発見・早期対応）…定期教育相談、三者懇談の実施（5月、夏休み中、11月、1月）、Ｑ－Ｕなどの諸検査の効果的活用、いじめゼロ強調月間の実施（5月、10月）、道徳科の授業・体験活動・学級活動の充実、スタンダードダイアリーの活用

（4）生徒会活動、部活動、清掃活動の活発化

様々な集団活動の場で、自己有用感（所属感、充実感）を感じとれるような生徒会活動、部活動、清掃活動の活発化に努める。

- ・生徒の手による企画、運営の場を多く設定する…各学校行事等
- ・部活動のきまりを遵守し、部活動に積極的に参加させる
- ・清掃活動を積極的、計画的に行う…毎日の清掃活動、地域清掃活動

（5）学校、家庭、地域の連携強化

全職員相互の連携はもとより、小学校・家庭・地域との連携を密に図れるような体制の確立に努める。（地域学校園、地域協議会との連携）

- ★学校だより，保護者向け生徒指導だより，学年だより，学級だよりなどの諸たよりを定期的，継続的に発行し，家庭，地域との連携を強化する

(6) 教師の自己啓発と指導体制の確立

教師が人間として，また，社会人として常に生徒の模範であることを自覚し，自己啓発をしながら協力体制を確立する。

- ★生徒を納得させる指導，すき間を作らない指導の実践…「1日の流れと生徒指導」による共通行動

(様式4)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和6年度 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食育・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

○定期健康診断

- ・「未処置歯のある者」の割合は、全体の12.3%（県平均12.0%）で、学年が上がるにつれて、むし歯・C O（初期むし歯）・G O（軽度の歯肉炎）保有者が増加している。
- ・C O保有者は47名（昨年の3倍）、G O保有者は31名（昨年より－10名）おり、ブラッシング指導等、むし歯や歯肉炎に進行しないよう、経過観察をする必要がある。
- ・低視力（B～D）の生徒は59.6%であり、県平均（60.5%）をやや下回っている。学年が上がるにつれ、低視力者が増加している。
- ・メガネやコンタクトレンズ使用者は、全体の約3割（28.4%）だが、矯正しているにもかかわらず、半数以上がCやDであり、自分の視力にあった度でない生徒が多く見られた。

○元気っ子健康体力チェック

- ・各学年男子の各種目ほとんどが県平均と同等もしくは上回っている。
 - ・各学年女子の各種目ほとんどが県平均を下回っている。
- #### (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）
- ・健康診断で指摘されているところは「早めに治療している」「ある程度治療している」と回答している生徒は1学年87.2%、2学年93.3%、3学年87.2%と、早期治療への意識は高いが、コロナ感染の不安から受診をためらう家庭も見受けられた。
 - ・平日の寝る時間は、1・2学年が11時台、3学年は12時台が最も多く、起きる時間は、1・2学年が6時半頃、3学年は7時頃が最も多い。睡眠時間は、全体の63%が「6～8時間」と回答しており、「6時間未満」の割合は全体の12%だった。
 - ・朝食を毎日食べていると回答している生徒は1学年80.6%、2学年81.3%、3学年81.5%であった。また、栄養バランスを考えて食べることは大切だと回答した生徒は、1学年99.1%、2学年98.8%、3学年99.1%であった。保健体育や家庭科で朝食や栄養バランスの大切さを学んで理解していると考えられ、実践できるような指導と家庭への啓発が必要と考えられる。
- #### (3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から
- （※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）
- ・全校での体育祭を実施することができるようになるなど体育を通じた交流が盛んになり体力向上の意欲を高めることができた。

- ・「薬物乱用防止教室（演劇）」（2 学年：体育館で観劇，1・3 学年：テレビ放送），歯の健康教室（1 学年），性教育講演会（3 学年）をテレビ放送で実施し，各分野の知識を深め，意欲的に学ぼうとする生徒の姿がみられた。
- ・健康診断においては，昨年までの反省をもとに，実施計画の見直しを行った。感染症対策を踏まえた計画が，学校保健活動を見直すよい機会となり，検診方法の変更や，会場内の人数制限を行ったことで，以前よりスムーズに行えるなど，安全かつよりよい方法で行うことができた。
- ・生徒の態度，取組を見ると，意欲的に学び取ろうとする姿が見られ，健康の課題について理解を深めることができた。
- ・食に関する指導については，「おにぎりの日」を前に栄養教諭によるおにぎり作りに関するワークシートを配付し，計画において栄養バランスに配慮する生徒が増えた。
- ・安全については，文化祭における自転車の交通安全指導を行った。また，避難訓練を実施した。さらに2年生の保健の学習で事故や自然災害について学び，生徒が自ら危険を予測し回避する力が身に付いた。

2 今年度の重点目標

○交通安全教室などを実施するなどして，交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ，自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。

- ・体力向上や心身の健康の保持増進に心がけ，自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。

○食に関する指導の一層の充実を図るとともに，生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★， 「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

（1）体力について

- うつのみや元気っ子チャレンジ結果の積極的活用
- 昼休みの校庭開放による運動の実施
 - ・学級で利用できるボールの追加

（2）保健について

- 定期健康診断の実施，家庭への結果通知
- 健康診断結果に基づき，教職員と連携した早期治療の呼びかけ
- ★心の保健だよりをはじめとする，心身の健康に関する情報発信の強化
- ★LGBTQについての情報発信，男女差（色で分ける等）をなくす取組の強化
 - ・関係機関と連携を図った講演会の実施（歯科，性，薬物乱用防止）
 - ・保健だよりやホームページ，掲示物を通じた健康情報の発信
 - ・感染症予防の継続
 - ・生徒会保健委員会の活性化

（3）食に関する指導について

- ・栄養教諭による専門性を生かした食に関する指導
- ・食育推進委員会で食に関する課題を把握し，学校全体での指導の徹底

- 正しいお箸の持ち方など食事マナーに関する指導の推進
- 各教科・行事と連携した食に関する指導の実施
- 「お弁当の日」を機会とした望ましい食生活についての指導

★給食を通した日本の食文化に関する指導

- ・生徒会給食委員会によるSDGsや地産地消など食に関する啓発活動の推進

(4) 安全について

- ・校内におけるけがを防止するためのきまりを守る態度の定着
- ・休み時間におけるボール使用時のマナーの徹底

- スケアードストレイト方式による交通安全教室の実施

(5) 防火防災について

- 校内における防火・防災時の速やかな非難

★「災害を想定した避難訓練」の実施

- 災害時における避難経路の徹底

- 関係機関と連携を図った防災教室の実施

- ・生徒引き渡しカードの更新

(様式5)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和6年度 校内研修（研究）計画及び管理主事・指導主事等の訪問要請計画

1 研究主題

教職員の資質向上を目指して

2 研修（研究）年間計画

月	内 容 及 び 方 法	○□ ◇◎印	要請する教科等 及び時期
4	・ 令和6年度の校内研修計画の確認 ・ 教科部会（1） ・ 身体的配慮生徒に関する共通理解（緊急用） ・ 食物アレルギー対応研修（エピペンの使用方法等） ・ 心肺蘇生法、AED研修 ・ 校内研究授業（通年）		
5	・ 宇河中教研教科外部会（1） ・ 小中一貫各部会		
6	・ 宇河中教研教科部会（1）		
7	・ Q－U研修		
8	・ 宇中教研教科部会（2） ・ 宇中教研教科外部会（2） ・ 教科部会（2）		
10	・ 第1回要請訪問	◎	教育相談（不登校への 理解と対策 10月上旬）
11	・ 小中一貫各部会（各部会ごとに計画実践）		
12	・ 小中一貫各部会（各部会ごとに計画実践） ・ 第2回要請訪問	◎	情報教育（ICT活用 実践 12月上旬）

◎： 作成要領2の(3) イ(イ) bに該当する要請訪問